

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-111	高等学校	情報	社会と情報	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	社情 312	高校社会と情報 新訂版		

1. 編修の趣旨及び留意点

- ・身近な情報システムやコンピュータなどについての仕組みを知ることにより、幅広い知識を身に付け、知識に裏付けられた判断や行動ができる態度を養えるようにした。
- ・職業及び生活と情報の関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うために、企業や身近な店舗の情報システムの例などを取り上げた。
- ・社会の発展に寄与する態度を養うために、自分や他人の権利を知り、それらを尊重するとともに法律を遵守するための内容を取り上げ、著作物については正しく利用するための内容を掲載した。

2. 編修の基本方針

教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化の仕組みや日常生活で利用しているメディアの意味を学習することにより、論理的な考え方を養うとともに、幅広い知識を身に付けられるように配慮した。 ・難易度の高いような内容についても、側注や Supplement PLUS, 参考など本文とは異なる取捨選択できるような形で積極的に取り上げるようにした。
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・例題やコラムなどで具体的な題材を取り上げるとともに、社会の中での利用実態を示唆した。 ・知的財産権の扱いでは、創作活動による個人の権利や利益を保護することだけでなく、文化や産業・経済の発展につながることにしても取り上げた。 ・例題の解答には、解法を併記するようにし、巻末には章末問題の解答を掲載して、自学自習として自主及び自律の精神を養えるようにした。
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報社会のメリットとデメリットを示し、インターネット上のサービスや技術の功罪を考えさせることで、インターネットを通じたコミュニケーションも実社会と同様に、他者をいたわり、危険を回避する必要があることを実感させた。また、匿名性や信憑性などインターネット特有の問題点に気付くよう促した。
第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・CO₂削減など具体的な環境問題を題材として扱うことにより、自然環境に関心をもったり、積極的に行動したりするように配慮した。 ・携帯端末の利用については、歩行中といった状況や場所をわきまえる必要があることを示し、命を尊ぶような安全配慮を促した。
第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを通じたコミュニケーションや、いろいろな人が利用できるような情報システム構築のための考え方を学ぶことで、国際社会の発展に貢献する心構えを体得できるようにした。 ・著作物などの意義を扱うことにより、個人の権利や利益を保護することだけでなく、文化や産業・経済の発展についても取り上げた。

3. 対照表

図書の構成 ・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
1 章	<ul style="list-style-type: none"> ・真理を求める態度を養うために、情報の種別・性質を図解して掲載した（1号）。 ・道徳心を培うために、携帯電話のルールとマナーを取り上げた（1号）。 ・幅広い知識と教養を身に付けるために、コンピュータの発達や構成について取り上げた（1号）。 	6-7 頁 11 頁 22-25 頁
	<ul style="list-style-type: none"> ・情報化による生活やビジネスの変化を取り上げることで、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養えるようにした（2号）。 ・ノイマンやアラン・ケイといった研究者を紹介することで、勤労を重んずる態度を養えるようにした（2号）。 	8 頁 22 頁
	<ul style="list-style-type: none"> ・情報化の光と影を示し、技術やサービスの功罪を考えさせることで、正義と責任についての考えを養えるようにした（3号）。 ・情報社会の問題において、不正アクセス禁止法や個人情報の保護に関する法律を扱い、社会の発展に寄与する態度を養えるようにした（3号）。 	9 頁 12 頁
	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット上でのコミュニケーションで注意すべきことやサイバー犯罪を取り上げ、安全上の配慮を促すようにした（4号）。 ・メディアリテラシーについて説明する中で、節電に関する例を取り上げ、環境保全に寄与する態度を養えるようにした（4号）。 	10-13 頁 21 頁
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と諸外国とで異なる色の取り扱いに関する文化を取り上げ、他国を尊重し国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにした（5号）。 ・伝統と文化を尊重する態度を養えるように、コンピュータの発達の歴史や3Dプリンタで出力している土偶の例を扱った（5号）。 	19 頁 22-24 頁
	2 章	<ul style="list-style-type: none"> ・電子メールを利用する際の注意点やインターネットにおけるコミュニケーションツールの特徴を掲載することで、道徳心を培えるようにした（1号）。 ・普段利用している情報システムの仕組みを学習することにより、幅広い知識を身に付けられるように配慮した（1号）。
<ul style="list-style-type: none"> ・生活との関連を重視するために、日常的に利用しているインターネットの仕組みについて扱った（2号）。 ・暮らしの中の情報システムの具体例をいくつか載せることで、社会での有用性を考え、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養えるようにした（2号）。 		40-43 頁 50-51 頁
<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを利用したサービスの役割やその影響を掲載することで、情報社会の形成に参画する態度を養えるようにした（3号）。 ・共通理解を図りながら効率よく作業を進める仕組みとして合意形成を取り上げ、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養えるようにした（3号）。 ・バリアフリーやユニバーサルデザインなどの情報技術について取り上げ、その必要性があることを実感させ、公共の精神を養えるようにした（3号）。 		46-49 頁 54-55 頁 56-57 頁
<ul style="list-style-type: none"> ・生命を尊ぶ態度を養えるように、食の安全を求めるためのトレーサビリティについて取り上げた（4号）。 		51 頁
<ul style="list-style-type: none"> ・自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養えるように、インターネットで救われた渡り鳥（藤前干潟）の例を載せた（4号）。 		54 頁
<ul style="list-style-type: none"> ・モールスやバルなどの諸外国の発明家を取り上げることにより、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにした（5号）。 ・地震の多い我が国で実際に使用されている緊急地震速報システムを取り上げることで、我が国と郷土を愛する態度を養えるようにした（5号）。 		34 頁 51 頁

図書の構成 ・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
3 章	<ul style="list-style-type: none"> 共通鍵暗号方式や公開鍵暗号方式などの仕組みを図解することにより、真理を求める態度を養えるようにした（1号）。 	66-67 頁
	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付けられるように、公開鍵暗号方式で利用されている RSA 暗号を扱った（1号）。 	68-69 頁
	<ul style="list-style-type: none"> 道徳心を培うために、安全対策のための法律を多く取り上げた（1号）。 	70-71 頁
	<ul style="list-style-type: none"> 個人の価値を尊重する態度を養うために、産業財産権や著作権といった知的財産権について扱った（2号）。 	72-79 頁
	<ul style="list-style-type: none"> 「引用」や「転載」について詳しく解説することで、文章を作成する際の自主及び自律の精神を養えるように配慮した（2号）。 	76 頁
	<ul style="list-style-type: none"> 公共の精神に基づき、主体的に社会に参画するために産業財産権や著作権といった知的財産権について取り上げた（3号）。 	72-79 頁
	<ul style="list-style-type: none"> 特許情報を Web サイトで検索させる例題を掲載することにより、必要な情報を自ら見つけるための技術を学び、主体的に社会に参画する態度を養えるようにした（3号）。 	73 頁
	<ul style="list-style-type: none"> 物理的な資源の追加を必要としない VLAN を取り上げることによって、システムを省力化する方法を学び、省エネルギーといった観点から環境保全に寄与する態度を養えるようにした（4号）。 	63 頁
	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォンに搭載されている長寿命化したリチウムイオン電池の例を掲載して、環境の保全に寄与する態度を養えるようにした（4号）。 	73 頁
	<ul style="list-style-type: none"> ベルヌ条約や WIPO など国際的な条約や機関を取り上げることに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにした（5号）。 著作物を利用する方法を学ぶことにより、伝統と文化を尊重しながら、創作活動を円滑に進めることができる態度を養えるようにした（5号）。 	72 頁 76-79 頁
4 章	<ul style="list-style-type: none"> 学習事項の要点や公式を「POINT」として、また関連する知識を「参考」として多数掲載し、幅広い知識と教養を身に付けられるようにした（1号）。 	82-113 頁
	<ul style="list-style-type: none"> 各種アナログデータをデジタル化する仕組みをそれぞれ図解することにより、真理を求める態度を養えるようにした（1号）。 	86-101 頁
	<ul style="list-style-type: none"> 自主及び自律の精神を養うために、二進法、十進法、十六進法の各数値を変換する問題の解答例に解答の手順を掲載した（2号）。 	90-91 頁
	<ul style="list-style-type: none"> 解像度や画像・音声データ量などのさまざまな計算問題に解答と解説・手法を併記し、自学自習できるような自主及び自律の精神を養えるよう配慮した（2号）。 	108-113 頁
	<ul style="list-style-type: none"> デジタル情報の特徴を扱うことで、情報の科学的な見方や考え方を学び、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるようにした（3号）。 	82-85 頁
	<ul style="list-style-type: none"> アナログ時計の例として日時計を掲載して、自然を大切にする態度を養えるようにした（4号）。 	82 頁
	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークなどの情報システムに負担をかけないための技術であるデータを圧縮する仕組みを取り上げて、環境を保全する態度を養えるように配慮した（4号）。 	106-107 頁
	<ul style="list-style-type: none"> 日本固有の J I S コード及びシフト J I S コードの相互利用について丁寧に解説して伝統を尊重する気持ちを養えるようにした。また世界で用いられている Unicode を併記することで国際社会の平和と発展に寄与する態度も養えるようにした（5号）。 黒いインクを「K」と称する過去の印刷技術における慣習の例を取り上げて、伝統と文化を尊重する態度を養えるようにした（5号）。 19 世紀に発明されたゾートロープの写真の載せることにより、伝統と文化を尊重する態度を養えるようにした（5号）。 	92-93 頁 96 頁 102 頁

図書の構成 ・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
5章	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を解決する手法を複数取り上げ、それらを図解することによって、真理を求める態度を養えるようにした（1号）。 	116-117 頁
	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の「技術」の内容であるインターネットを利用した検索技術を取り上げ、幅広い知識と教養を身に付けられるようにした（1号）。 	118-121 頁
	<ul style="list-style-type: none"> ・情報やデータを分析するための手法を取り上げることによって、真理を求める態度を養えるようにした（1号）。 	124-137 頁
	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を収集する手法を丁寧に取り上げ、自学自習としての自主及び自律の精神を養えるようにした（2号）。 	118-121 頁
	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の整理と管理において、図書館での例を掲載することにより、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養えるようにした（2号）。 	123 頁
	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトを使用したデータの加工・編集を解説するために、具体的な画面例を掲載して、自学自習として自主及び自律の精神を養えるように配慮した（2号）。 	124-143 頁
	<ul style="list-style-type: none"> ・表やグラフの活用方法やフォントの選択、配色などの表現技法を取り上げることによって、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培えるようにした（2号）。 	132-137, 148-149 頁
	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的な文章を構成するための技術を取り上げることによって、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培うようにした（2号）。 	144-147 頁
	<ul style="list-style-type: none"> ・協力を重んずる態度を養えるように、問題を解決するための手法としてブレインストーミングを扱った（3号）。 	117 頁
	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を効率よく共有・管理するための方法を取り上げることによって、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養えるようにした（3号）。 	122-123 頁
<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなプレゼンテーションの技法や Web ページを用いた情報発信の方法を取り上げることにより、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにした（3号）。 	150-165 頁	
<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の実践の題材として地球温暖化の問題を取り上げることで、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養えるようにした（4号）。 	138-143 頁	
<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの例として再生可能エネルギーを取り上げ、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養えるようにした（4号）。 	151 頁	
<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的なプレゼンテーションを紹介することにより、伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度を養えるように配慮した（5号）。 	157 頁	
<ul style="list-style-type: none"> ・Web ページによる情報発信において、太宰府天満宮の写真を掲載することにより、伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度を養えるように配慮した（5号）。 	163 頁	

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・コンピュータの基本構成や情報処理の基本的な知識をさらに発展させて、情報機器を適切に扱えるようにし、実践的に活用をするための資質を養えるようにした。
- ・広く深い理解と健全な批判力を養うために、情報の信頼性や信憑性を評価する方法を学び、社会の発展に寄与する態度を養えるようにした。
- ・他教科と関連するような内容については、その内容以外に補足や関連事項・解説などを掲載して、理解を促すとともに自学自習の際の利便性を考慮した。
- ・英略語や難解な漢字にルビを掲載し、幅広い知識と教養を身に付けられるようにした。
- ・内容を見開きで紙面上に展開することによって、教科書を利用する際の利便性を図った。
- ・図解やイラスト、写真、表などを多く掲載し、学習者の理解を促す工夫をした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-111	高等学校	情報	社会と情報	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	社情 312	高校社会と情報 新訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- ・各項目について、知識と技能を関連付けて習得できるように関連ページを付記した。また、身近な例を用いて展開することにより、知識だけにとどまらず生活の中で問題解決に応用できるように配慮した。
- ・学習要素をコンパクトにまとめているが、コンピュータについては高度な内容も扱っており、また社会的な内容については、実践的な内容を扱うように配慮した。
- ・情報社会における技術や使用されている用語などの変化が激しい中、できるだけ普遍的な知識を正確で詳細に説明するように配慮した。

(1) 内容

- ・特定のコンピュータやアプリケーションソフトウェアに依存しないように、一般論を用いて学習要素を説明した。
- ・身近な題材を取り上げることによって、学習者の興味を喚起させるとともに、学習内容を理解・実感できるような配慮をした。
- ・自分や他人の権利を知り、それらを尊重するとともに法律を遵守し、著作物についてはそれを正しく利用するための内容を掲載し、社会の発展に寄与する態度を養えるようにした。
- ・個人情報、著作権、モラルなどについては、身近で具体的な事例を取り上げ、わかりやすく解説した。
- ・モラルや個人情報、メディアに関することなど、情報社会の中での心構えについて、丁寧に取り上げた。

(2) 構成・分量

- ・学習指導要領で示された学習要素については、高等学校での学習環境などの状況を勘案して、その掲載順序を一部変更した。
- ・学習要素を50のテーマに整理・分類し、各項目を見開きで紙面上に展開することで、指導計画を立てやすく、また利用しやすい教科書を目指した。
- ・難易度が高い項目には「Supplement PLUS」、関連・補足する項目には「Supplement」とサブタイトルを付けた。
- ・用語解説、著作権法、情報で使用する単位など、広い範囲で用いることが予想される事項については、巻末にまとめて掲載した。

(3) 表記・表現及び使用上の便宜

- ・英略語や難解な読み方をする語には、ルビを掲載した。
- ・重要事項を「POINT」でまとめ、内容を補足したり関連したりする事項を「参考」として掲載した。
- ・より詳細な内容が掲載されている場所を、参照ページとして適宜示した。
- ・難解な仕組みや概念は、図解やイラスト、写真を併記して、視覚的に理解しやすいように配慮した。
- ・重要な用語などはゴシック体で表記し、学習者の注意を喚起するようにした。
- ・口絵や見返しでは、身近な情報技術や表現技法の例などを幅広く取り上げ、学習した内容が深まる資料になるように配慮した。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	箇所	配当時数
1章 情報社会		5-26 頁	9
1 情報と情報社会	(1) 情報の活用と表現 ア 情報とメディアの特徴	6-7 頁	1
2 社会の変化と個人の責任	(3) 情報社会の課題と情報モラル ア 情報化が社会に及ぼす影響と課題	8-11 頁	1. 5
3 情報社会の問題		12-13 頁	1
4 個人情報とその保護	(3) 情報社会の課題と情報モラル ウ 情報社会における法と個人の責任	14-17 頁	1. 5
5 メディアとその特徴	(1) 情報の活用と表現 ア 情報とメディアの特徴	18-19 頁	1
6 メディアリテラシー	(2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション ウ 情報通信ネットワークの活用と コミュニケーション	20-21 頁	1
Supplement コンピュータの発達	(2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション ア コミュニケーション手段の発達	22-23 頁	1
Supplement コンピュータの構成		24-25 頁	1
2章 コミュニケーション		27-58 頁	1 0
1 コミュニケーション	(2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション ア コミュニケーション手段の発達	28-29 頁	1
2 電子メールの利用	(2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション ウ 情報通信ネットワークの活用と コミュニケーション	30-33 頁	1
3 ネットワーク	(2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション イ 情報通信ネットワークの仕組み	34-35 頁	1
4 共通の取り決め		36-39 頁	1
5 インターネットの仕組み		40-43 頁	1
6 Web ページの閲覧とメールの 仕組み		44-45 頁	1
7 インターネットを利用した サービス	(2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション ア コミュニケーション手段の発達	46-49	1
Supplement 社会の中の 情報システム	(4) 望ましい情報社会の構築 ア 社会における情報システム	50-53 頁	1
8 情報の共有化と合意形成	(4) 望ましい情報社会の構築 イ 情報システムと人間	54-55 頁	1
Supplement 人に優しい情報技術		56-57 頁	1

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	箇所	配当時数
3章 情報安全		59-80 頁	10
1 個人による安全対策	(3) 情報社会の課題と情報モラル イ 情報セキュリティの確保	60-61 頁	1
2 組織による安全対策		62-63 頁	1
3 安全のための情報技術		64-65 頁	1
4 暗号化		66-67 頁	1
Supplement PLUS 暗号化の 仕組み		68-69 頁	2
5 法規による安全対策		70-71 頁	1
6 知的財産権の概要と 産業財産権	(3) 情報社会の課題と情報モラル ウ 情報社会における法と個人の責任	72-73 頁	1
7 著作物		74-77 頁	1
8 著作物の利用		78-79 頁	1
4章 デジタル化		81-114 頁	11
1 デジタル情報の特徴	(1) 情報の活用と表現 イ 情報のデジタル化	82-85 頁	1
2 静止画像の扱い		86-89 頁	1
3 数値や文字の表し方		90-93 頁	1
4 音のデジタル化		94-95 頁	1
5 色のデジタル表現		96-97 頁	1
6 画像のデジタル化		98-101 頁	1
Supplement PLUS 動画と 立体表現		102-103 頁	1
7 圧縮の種類		104-105 頁	1
8 圧縮の仕組み		106-107 頁	1
9 さまざまな計算		108-114 頁	2

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	箇所	配当時数
5章 問題解決		115-166 頁	30
1 問題を解決するには	(4) 望ましい情報社会の構築 ウ 情報社会における問題の解決	116-117 頁	1
2 情報の収集		118-119 頁	1
Supplement 検索と論理演算		120-121 頁	1
3 情報の整理と管理		122-123 頁	1
4 分析のための工夫		124-127 頁	1
5 関数と統計		128-131 頁	1
6 表とグラフの活用		132-135 頁	1
7 分析の実際		136-137 頁	4
8 問題解決の実際		138-143 頁	1
Supplement 論理的な文章構成	(1) 情報の活用と表現 ウ 情報の表現と伝達	144-147 頁	1
Supplement 表現の工夫		148-149 頁	1
9 プレゼンテーションの方法		150-157 頁	8
10 Web ページによる情報発信		158-165 頁	8
		計	70